

全般季節予報支援資料 1か月予報 2014年1月3日

予報期間：1月4日～2月3日 気象庁地球環境・海洋部

全般季節予報

(1) 特に注意を要する事項

なし。

(2) 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い見込みです。北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない見込みです。

(3) 確率

1か月	気温(%)	1か月	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
	低並高		少並多	少並多	少並多
北日本	40:40:20	北日本日本海側	30:30:40	40:30:30	30:30:40
		北日本太平洋側	40:30:30	30:30:40	
東日本	40:30:30	東日本日本海側	30:30:40	40:30:30	30:30:40
		東日本太平洋側	30:40:30	30:40:30	
西日本	30:40:30	西日本日本海側	30:40:30	30:40:30	30:40:30
		西日本太平洋側	30:40:30	30:40:30	
沖縄・奄美	40:40:20	沖縄・奄美	40:40:20	20:40:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	30:50:20	50:30:20	30:40:30
東日本	30:50:20	40:40:20	30:40:30
西日本	20:50:30	30:40:30	30:40:30
沖縄・奄美	60:30:10	30:40:30	30:40:30

最近1週間の天候経過

最近1週間(12/28～1/2)は、期間前半は冬型の気圧配置が続き、山陰、近畿日本海側、北日本の一部などで雪となった。期間後半は冬型の気圧配置は一旦ゆるんだが、北海道付近で低気圧が急発達し、北日本を中心に冬型の気圧配置が再び強まった。週平均としては、沖縄・奄美はかなりの低温、西日本、東日本も低温となったが、低気圧の通過前に南から暖気が流入する等した北日本は平年より気温が高かった。

予報資料の解釈

● 1か月(1/4～1/31)

- 500hPa 高度は、日本付近では明瞭な偏差は予想されていない（やや正偏差）。東・西日本は平年程度に寒気の影響を受けやすいが、アリューシャン低気圧が北側で強いため北日本は寒気の影響をやや受けやすい。シベリア高気圧に覆われやすい沖縄・奄美は寒気の影響を受けやすい。

● 1 週目 (1/4~1/10)

- 500hPa 高度は、寒帯前線ジェット沿いの波列の影響で、本州付近はやや正偏差となる。北海道や沖縄・奄美は負偏差。また、中央シベリアやベーリング海で明瞭な負偏差となる。
- 海面気圧をみると、アリューシャン低気圧が北側を中心に強く、シベリア高気圧も日本付近ではやや強い。
- 下層気温は、北日本は負偏差で、東・西日本はゼロ付近、沖縄・奄美は負偏差となる。
- 週間予報資料によれば、全国的に、気温は期間のはじめと終わりは平年並か平年より低く、期間の中頃は平年並か平年より高い。気圧の谷の影響をうける時期もあるが、降水量は（東日本以西ではほぼ）平年並の予想。

▶ 想定される天候

- 北・東・西日本日本海側では、寒気（冬型の気圧配置）や気圧の谷の影響により、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。
- 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美では、気圧の谷や寒気の影響により、雲が広がりやすく雨の降る日もあるが、期間の中頃には晴れる日もある。

● 2 週目 (1/11~1/17)

- 熱帯域は、1 週目中頃よりインド洋が対流活発から不活発になり、2 週目には西部太平洋熱帯域の対流活発がやや弱くなる（MJO の東進は明瞭なものではない）。
- このため、東南アジア付近は1 週目に上層発散場だったが、2 週目は上層収束場が変わってくる。対応して、中国付近で亜熱帯ジェットが南に蛇行、日本から日本東方で北に蛇行する傾向が出てくる。
- 500hPa 高度は、寒帯前線ジェット沿いの波列はやや不明瞭になる。シベリアからベーリング海の負偏差は弱まりつつも残り、北海道も負偏差のまま。
- アリューシャン低気圧は、北側を中心に強い状態が続き、シベリア高気圧は、本州、沖縄・奄美に張り出す予想。北日本を中心に強い冬型の気圧配置、西日本以西は平年程度の冬型の気圧配置を、それぞれ見込む。
- 下層気温は、アリューシャン低気圧の影響も受けやすい北日本ではやや明瞭な負偏差で、東日本も負偏差。西日本以西はほぼ偏差ゼロ。
- 北・東日本は寒気の影響を受けやすい。西日本は寒気の影響は平年程度。沖縄・奄美は、高気圧に覆われやすく、気温は平年程度だが、曇りや雨の日が少ないとみる。

▶ 想定される天候

- 北・東日本日本海側は、寒気の影響が平年より強く、平年に比べ曇りや雪の日が多い。
- 西日本日本海側では、寒気の影響により、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。
- 北・東日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。
- 西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすく、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

● 3 ~ 4 週目 (1/18~1/31)

- 熱帯域は、インド洋で一段と対流不活発となり、西部太平洋熱帯域の対流活発もやや弱体化（MJO の東進は不明瞭）。このため、南アジア~東南アジアでは上層発散場がますます明瞭となる。対応して、亜熱帯ジェットも、南アジア~中国で南偏、日本から日本東方で北に蛇行する予想。
- しかし、インド洋の対流不活発は、海面水温の初期値（インド洋熱帯域~北部で負偏差）固定

の影響を強く受けているとみられる。このため、この対流不活発や日本付近の循環場への影響も、大幅に割り引いて考える。

- ・ 日本付近の循環場のスプレッドも大きい。
- ・ 500hPa 高度は、日本付近はやや明瞭な正偏差だが、平年程度までに割り引く。
- ・ 日本付近の冬型の気圧配置は、やや緩む予想。下層気温も正偏差だが、これらも平年程度まで割り引く。

➤ 想定される天候

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 北日本日本海側は、寒気や気圧の谷の影響により、平年と同様に曇りや雪の日が多い。・ 東・西日本日本海側では、寒気の影響により、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。・ 沖縄・奄美では、寒気や気圧の谷の影響により、平年と同様に曇りや雨の日が多い。 |
|---|

気象庁ホームページ

○季節予報

http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/001_00.html

○「向こう1か月の天候の見通し（1か月予報の解説）」

<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/pdf/pdf1/001.pdf>

も参照してください。

この資料は、気象事業者等が気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。